読書メモ２０１８年９月号

高野圭著『たのしく教師デビュー』

（仮説社･2018 年 8 月）ほか

やなぎさわかつひろ
柳沢克央　編

（信州･上田仮説サークル）

2018 年 9 月 22 日（土），9 月例会用レポート

◇はじめに ―

前回までの「読書メモ」と同様，サークルで発表することを目的とすると，読書がはかどるので，今回もこのメモを作成しました。自身のため，記録を残すことが第一目的です。みなさま，よろしく（適当に）おつきあい下さい。今までのものと同様に説明あり，引用あり，要約あり，感想ありで諸々が混交しておりますのでご注意を。（私物）と書き添えてあるもの以外はすべて屋代高校図書室蔵書。

◇8 月号で読んだ本

◎細谷功著『メタ思考トレーニング』（PHP ビジネス新書・2016 年）（私物）

◎戸部良一・寺本義也・鎌田伸一・杉之尾孝生・村井友秀・野中郁次郎・著『失敗の本質』（ダイヤモンド社・1984 年）（私物・アマゾン）

◎野中郁次郎・戸部良一・鎌田伸一・寺本義也・杉之尾孝生・村井友秀・著『戦略の本質』（日本経済新聞社・2005 年）（私物・アマゾン）

◇今月，読んだ本

◎浦上大輔著『たった１分で相手をやる気にさせる話術 PEP TALK（ペップトーク）』（フォレスト出版・2017 年）（私物）

「ペップトーク」という言葉があることは，この本があることと同時にネット上で初めて知った。スポーツ選手にやる気を出させて良いプレイをしてもらうためにコーチが書ける言葉がペップトークである。要するに選手のやる気と実力を引き出す言葉がけのことだ。

とてもさらりとしていて読みやすい。やり方は単純。次の４ステップを踏んで相手の反応を見ながらスピーディーに話すことが大切。

１．　受容（事実の受け入れ）

２．　承認（とらえかた変換）

３．　行動（してほしい変換）

４．　激励（背中のひと押し）

スピード感と簡便性を求められる点でとても現代的であり，また，よく考えてみると特に奇異なところはなく,心理学を上手く活用した積極的で明るい手法だと読み取れた。

◎小森敦司著『「脱原発」への攻防』（平凡社新書・2018 年）

典型的な新書。賞味期限は短めであろう。それが新書。オビにある引用文をそのまま打ち込んでみる。

…あれだけの大事故を起こしてしまった東京電力は，廃炉などにかかる事故費用の拡大が止まらず，今も実質的に国の管理下にある。海外の原子力事業でつまずいた東芝も深刻な経営危機に陥った。「原子力村」の中心的な存在だった 2 社が瀕死の重傷を負っている。

そればかりか，原発は「原発のごみ」の最終処分場探しがなかなか進まないなど，原子力政策全般で，いくつもの綻びが見られるようになった。原発に対する国民世論は依然として厳しい。（中略）折しも太陽光や風力などの再生可能エネルギーの発電コストはぐんぐん下がり，大量導入時代に入っている。

もはや原発を維持するために,「原子力村」がどんなにもがいても，原発から再生可能エネルギーへの電源シフトを止められないのではないだろうか。もしかすると,「原子力村」の瓦解も近いのかもしれない。（「はじめに」より）

＊

しごくまっとうな論調である。そして，その文章の背後に隠されている真意のような物が感じられる。ずばり，それを言うならば「日本が原発と共に沈没する日が近いのかもしれない」ということである。いや，ひょっとすると「沈没」は 2011・3・11 から始まっているのかもしれないと思った。日本には原発という一時期の特殊な「成功体験」を「アン・ラーニング」する（忘れるのではなく，捨て去る）ことが必要だと思われる。

◎高野圭著『たのしく教師デビュー』（仮説社・2018 年 8 月）（私物）

とても楽しい本。思わず引き込まれて，著者と一緒に自分も教師デビューをしていく気になってしまう。同時に，仮説実験授業を楽しく実践するための知恵が何の惜しげもなくてんこ盛りに詰め込まれている。こんなにターボ効かせちゃって…ウフフ…とほくそ笑んでしまう。さらに，軽い嫉妬さえ感じる。

じつは，この本は二重構造になっているのだ。表面のサクセス・ストーリーの連続とは別に，さらに行間から仮説実験授業を実践する教師に問いかけるのだ。「…こんなにたのしい授業をやる方法があるのに，真似しなくていいの？自己流でいいの？」…どこにもこういう言い回しでは書いてないのだが，本書から何度もこう問いかけられているような気がしてきた。私のような 50 代（「ベテラン」と呼ばれる年齢）に達した教師たちにも厳しい「自己点検」を迫ってくる迫力がある。「教師経験が全くない人でも，忠実に追試すれば，ここまでできてしまうんですよね～」という「軽さ」に乗っかった教育科学の冷静な事実提示。…なんという，ずっしりとした「重さ」だろうか。ただものではない。

それにはわけがある。この本は一種の「書評」の如き形式も隠されている。おすすめの本がそこかしこに紹介されている。授業書とその実践記録たる授業記録も盛りだくさんに取り上げられている。それでいて，満腹感や圧迫感を感じないのが不思議だ。とにかく構成が巧みなのだろう。また，現代の SNS 画面の影響を受けた紙面構成で，とても親しみやすい。ついつい引き込まれてしまうのだ。著者といっしょに編者にもたくさんの「座布団」を贈りたい。

「自分の感覚を大事にすることはとても大切だ」（183 ペ）ということばに，感心することを通り越して，思わず息をのんだ。全く同じ言葉がたしか，ルクレチウスの『原子の

歌』の中に書かれていたはずである。これは哲学そのものである。しかも，むつかしい言葉が全くないのにも驚く。

この本は高野さんの筆を借りた「仮説実験授業研究会」または「たのしい授業学派」による鮮やかで，高らかな，そして朗らかな「勝利宣言」なのである。…と，書き始めたときには，こんなに褒めるつもりはなかったんだけれどなぁ。それだけ内容が良いんだなぁ。…と，とても感心しつつ筆を擱く。

◎板倉聖宣他著『板倉聖宣の考え方』（仮説社・2018 年 8 月）（私物）

人によって読み方は自由である。私の場合，犬塚氏・小原氏の二氏の解説文は一切飛ばして，板倉さんの語った部分だけを一気に 30 編読んだら，とても大きな達成感があった。そして，その後で解説の文章を，通しでじっくりと読んだら，板倉さんの語ったことがらの奥行きがグッと増して，とてもよかった。最も私の心に響いた第 22 編「絶対自己的自己賞賛」より，部分的に引用。

〇…人間は，自分の中にいる「自分を超越した存在」というものを考えることができます。それはぼくの中にいる，「ぼくのつくった僕」です。つまり，自分の中に「神」をつくるのではなしに，「もう一人の自分」をつくればいいのではないか。ようするに，その場その場でフラフラしている自分ではなくて，もっと安定性のある「美的基準」を決めるのです。それを座標にして，自分自身が〈少しでも美的でありたい〉と思って生きていくことです。…中略…そういう〈自分の中にいるもう一人の自分〉みたいなことを「絶対自己」と表現しました。…中略…この「絶対自己的自己賞賛」というもっとも高い価値基準―そういう安定した〈自分にとっては絶対的〉と感じられるものから自分を見て，「自分をほめてくれるように自分自身が動くことが最高の美なのである」というのが，ぼくの倫理学の変わらぬ木曽になっています。これは相当深く考えたものだったからか，いくらたってもそこから進歩していません。いや，その後はそんなことを考えているヒマがないために，その後も高等学校の学生のときに一生懸命考えたことをもとにしているような気もしないではありません。

自分が今生きている範囲内のことではなくて，もっと長い視野でもって自分を見つめるわけです。そういう〈絶対的な自分〉に自分が「ほめられたい」とか「美的でありたい」というような生き方をしようとすれば，どうしても〈出世のために何かやればいい〉

という感じではなくなってしまいます。「死んだあと，家族はどうなるんだろうか」なんてことも考えません。「生きてるときにちゃんとやればいい」ということです。（139 ペ）

◎牧衷著『寛容思想の成立と発展』（上田仮説出版・2018 年 7 月 30 日刊）（私物ガリ本）

◎バーバラ・オークリー著／沼尻由起子訳『直感力を高める数学脳のつくりかた』（2016 年）

　著者は米国ミシガン州オークランド大学の工学教授。女性。私よりやや若いくらいの近影がカバーに印刷されている。

◎阿刀田高著『やさしいダンテ〈神曲〉』（角川文庫・2011 年）

　本文には取り組まなかった。いざというときにまた借りて勉強しよう。今回はほとんど手に取っただけ，学校の図書館にこの本があるということを実感するだけでも収穫だと思う。

　巻末の佐藤優氏による解説を打ち込むことで勉強しておく。

＊

…近代を理解するための必読書が何冊かある。その一つがダンテの『神曲』だと私は考える。これに対して読者から「ダンテは十三世紀後半から十四世紀初頭に生きた中世の人じゃないか。確かに『神曲』は世俗語で書かれ，これがイタリア語のもとになったというけれど，ここで書かれている地獄，煉獄，天国は到底近代人には理解できない表象だ」という反応が返ってくると思う。

　確かにダンテは，神が天にいて，地下に地獄があるという近代より前の世界像の枠内で『神曲』を書いている。しかし，ここで書かれている内容は，「教会以外に救いはない」とされていた予定調和的な中世の枠組みから明らかに逸脱している。なぜならダンテが徹底的に個人に執着しているからだ。ダンテはベアトリーチェへの愛に執着する。そもそもこのような女性への過剰な執着自体がキリスト教の愛とは異質なものだ。〈ダンテとほぼ同い年のベアトリーチェは二十四歳で死んでいる。ダンテが現世でベアトリーチェに会ったのは二回くらい，ほとんど言葉を交わしていないのだ。〉（本書 223 ペ）現代の感覚でいうとダンテはストーカーである。しかも相手が死んだ後も，徹底的に追いかけ続けるので，かなり気合いが入ったストーカーだ。もっともダンテはこのストーカー行為を思想に昇華させた。そして，ダンテ個人の中に，キリスト教，ギリシア・ローマ神

話，ギリシア古典哲学や中世神学を吸収してしまったのである。

ダンテより五〇〇年後に活躍した一九世紀自由主義神学の父と呼ばれるシュライエルマッハーは，一七九九年に上梓された『宗教論』において，〈宗教は，形而上学のやうに，宇宙をその性質に従つて規定し且つ説明しようとは欲しないし，道徳のやうに，自由の力，及び人間の神的自由意志から宇宙を発展させ，且つ完成させようとは欲しない。宗教の本質は，思惟でも行為でもなく，直観と感情である。〉（シュライエルマッヘル〔佐野勝也／石井次郎訳〕『宗教論』岩波文庫，1949 年，49 ペ）と述べ，神の場を転換した。それまで，神は上にいると思われていた。しかし，地球が球体であり，しかも地動説が確立した状況で，もはや神が上にいると言っても説得力がない。そこで，シュライエルマッハーは，神は心の中にいると，神の場を天から心の中に移動したのである。心は目に見えない。神は目に見えない心の中にいるのだ。その結果，キリスト教は，近代的世界像と矛盾せずに生き残ることができるようになった。

『神曲』に描かれているのは，ダンテの心の中にある地獄，煉獄，天国の姿なのである。それだから『神曲』は，近代以後も二一世紀まで生き残っているのである。もっとも日本の読書人にとって，『神曲』は決してわかりやすい本ではない。その理由は，背景となる文化事情が異なるからだ。阿刀田氏はこう指摘する。

〈『神曲』は日本においても優れた古典として愛読されている。どれほど愛読されているか疑わしいところも少しあるけれど，高く評価され，敬われていることは確かである。だが，改めて熟読玩味してみると，これはキリスト教について相応な知識がないと，ほとんど理解を絶する古典である。とりわけ天国篇はそうだ。

―日本人は，そんなによくキリスト教になじんでいるかな―

旧約聖書と新約聖書の区別さえつかない人が少なくないのである。

すでに何度か触れたように,《神曲》にはギリシア･ローマ神話も繁く引用されている。この方面の知識も日本人はけっして豊富ではない。あれこれ勘案すると，なかなか愛読しにくい要素を含んだ古典と言ってもよさそうだ。〉（本書 294 ペ）

『神曲』には，キリスト教，ギリシア・ローマ神話だけでなく，ギリシア古典哲学の知識を前提として展開されている議論も多い。「なかなか愛読しにくい要素を含んだ古典」であることは間違いない。ただし，私たちは幸せである。阿刀田氏が，これら日本人にとって難解な箇所に適切な解説をつけて，適切な道案内を本書で行っているからだ。『神

曲』がいかに優れた古典であっても，その内容が理解できないなｒば,「紙の上のインクのしみ」にすぎない。難解な古典を，その意味を変化させずに，普通の読者に理解可能な言葉に言い換えることが, 思想家のなすべき重要な仕事である。阿刀田氏には, 聖書, ギリシア神話，シェイクスピアなどの国際基準での教養人にとって不可欠な古典を，現代の日本人に理解可能な言語に翻訳するたぐい稀な才能がある。本書における例をあげるならば，本書における例をあげるならば，キリスト教の本質をどうとらえるかという部分だ。

〈聖ペトロがダンテに信仰について，信仰の本質について問いただす。

「信仰とはなにかな？」

「私たちの願望の実体，見ることのできないものの証明です」

「それをどうやって知るのかな？」

「新旧二つの聖書にくまなく記され，慈雨の降り注ぐようにはっきりと示されてあります」

「新旧二つの聖書を，あなたはなぜ神の言葉と信ずるのかな？」

「いくつもの奇跡によりキリスト教が世界に広まり，多くの人々に信奉されていることから，そう信じます。三位一体は紛れもない真理であり，それによりいっさいが論理的に証明されます」

このくだりは(ずいぶんと大ざっぱに記したが)さまざまな神学を根拠として語られ，略述はむつかしいし，右のように綴ることには誹りもあろうけれど，あえて私見を述べればダンテの答えは”キリスト教を信じているからキリスト教は正しい”ということ，ダンテの強い信仰告白と見て，当たらずとも遠からず。私たち人間の願望の集約が信仰の実体であり，見ることのできないものも（よくわからないことだって）信仰があれば証明され納得できる，と言っているのだから…〉（本書 263～264 ペ）

じつを言うと私は阿刀田氏の解説を読んで，初めて『神曲』でダンテが信仰告白を行っていることに気づいた。『神曲』を初めて読んだのは，今から三一年前，同志社大学神学部二回生のときだった。平川祐弘氏の訳で読んだ。「地獄篇」「煉獄篇」は面白かったが,「天国篇」は当時の教会の立場と辻褄をあわせようとしたとってつけたような話ばかりだという印象を受けたので，適当に読み飛ばしていた。ロシアのインテリと『神曲』について議論することもときどきあったが，もっぱら「地獄篇」「煉獄篇」との類比でロ

シア社会を読み解くことに関心が集中していたので「天国篇」でダンテは信仰告白を行っている。ダンテは，〈この天上においては／その姿が私の目にも見えるさまざまな深遠な事物は／下界においてはまったく姿が隠れ，なに一つ見えません。／下界ではそうした事物の存在はもっぱら信仰に由来し／その信仰の基盤の上に大いなる希望が建つのです。／それゆえ信仰は実体の性格を帯びるのです。／そして私どもは他のものは見ずに，この信仰から発して／三段論法を推し進めなければなりません。／それゆえ信仰は論証の性格を帯びるのです〉（ダンテ〔平川祐弘訳〕『神曲・天国篇』河出文庫，2009 年）と強調している。

この世界には，目に見えないが確実に存在するものがある。信頼，希望，いつくしみ，愛などは目に見えないが確実に存在する。それらを理解するためには，信仰に裏付けられた知識が必要なのである。阿刀田氏の解説によってダンテの信仰告白について知ることができたことを私は神に感謝している。以下略

◎阿刀田高著『シェイクスピアを楽しむために』（新潮文庫・2013 年）

この本も，平易な解説書。何かシェイクスピアについて知りたくなったとき，辞書的に使えれば良いと思う。今回は読み込まずに返す。ただ E・K・チェーンバーズ推定によるシェイクスピア作品年譜（戯曲 37 編・詩類 3 編）を打つことでこの機会に勉強しておく。またね。

＊

1590 年－1591 年　『ヘンリー六世・第二部』『ヘンリー六世・第三部』

1591 年－1592 年　『ヘンリー六世・第一部』

1592 年　『ビーナスとアド―ニス』

1592 年－1593 年　『リチャード三世』『間違いの喜劇』

1593 年－1594 年　『タイタス・アンドロニカス』『じゃじゃ馬ならし』

1593 年－1596 年　『ソネット集』

1594 年　『ルクリースの凌辱』

1594 年－1596 年　『リチャード二世』『夏の夜の夢』

1596 年－1597 年　『ジョン王』『ベニスの商人』

1597 年－1598 年　『ヘンリー四世・第一部』『ヘンリー四世・第二部』

1598 年－1599 年　『から騒ぎ』『ヘンリー五世』
1599 年－1600 年　『ジュリアス・シーザー』『お気に召すまま』『十二夜』
1600 年－1601 年　『ハムレット』『ウィンザーの陽気な女房たち』
1601 年－1602 年　『トロイラスとクレシダ』
1602 年－1603 年　『終わりよければすべてよし』
1604 年－1605 年　『尺には尺を』『オセロー』
1605 年－1606 年　『リア王』『マクベス』
1606 年－1607 年　『アントニーとクレオパトラ』
1607 年－1608 年　『コリオレーナス』『アテネのタイモン』
1608 年－1609 年　『ペリクリーズ』
1609 年－1610 年　『シンペリン』
1610 年－1611 年　『冬の夜物語』
1611 年－1612 年　『テンペスト』
1612 年－1613 年　『ヘンリー八世』

以上，391 ぺより

◎安積（あさか）陽子著『NY とワシントンのアメリカ人がクスリと笑う日本人の洋服と仕草』（2018 年・講談社+α 新書）（私物）

安倍首相をはじめとする各国首脳のファッション・チェック。なかなか手厳しい。ルールを知らないと恥をかく。外交とは厳しいものである。企業戦士たちにも全く同じことが言える。服装の歴史と現状に関する正しい知識・認識が必要であることを痛感。

◎日野田直彦著『なぜ「偏差値 50 の公立高校」が世界のトップ大学から注目されるようになったのか!?』（IBC パブリッシング・2018 年 9 月 8 日刊）

ネットでたまたまこの本の存在を知った。司書の A さんに頼んだら，2 日後に届けてくれた。その超速に目を見張った。読みやすい。革新的。大学進学の数字を意識している高校の関係者なら，この本のことは気になるだろうが，読んでみて中途半端な覚悟では追試できないと思った。教育書に良くあるパターンの「校長奮戦記」の最新パターンの一つに分類できるだろう。結論は巻末にある次の 10 章に凝縮されている。

◆18 歳の自分へ

①本を読んでください。成功している人は，みな共通して本を読んでいます。目安は一年間で 3 万ページ。一日 100 ページが目安です。
②人生，気軽に行きましょう。大変なことはたくさんあります。特に 20 代は苦労してください。ただ，意外となんとかなるものです。しんどいときは深呼吸をして，空を見上げてください。困ったときは，誰かに気軽に相談してみましょう。また，他人と比較しても何の意味もありません。自分らしく生きましょう。
③自分の世界を広げるために，定期的に旅に出てください。また大学や仕事を始めたら，その世界とは違う人と週に一回は会ってください。そして「素敵な人」とつながってください。そこで得られた人脈こそが，あなたの最高の財産であり，人生を豊かにします。
④人に優しくしましょう。それは，単に甘い言葉を他人に言うという意味ではありません。本当の意味の優しさは，多くの人が言いたくないことを言う厳しさ，ないしは，叱ってくれる人を大事にしてください。叱ってくれる人はあなたに対して，愛情を持っている証拠です。
⑤守破離（礼儀）は大事にしてください。どんなところでも認識は必ず行動に出ます。気をつけましょう。一番大事なのは，挨拶や謝罪，感謝を必ず言葉にして伝えることです。
⑥すぐに成功することはありません。下積みを大事にする人が成功します。人の嫌がることを率先している人をちゃんと周りは見ています。派手な仕事より，丁寧で泥をかぶる人こそ，信頼を得ることができます。
⑦チャンスは必ず来ます。しかし，それは一回だけです。二度は来ません。失敗を糧にそのタイミングと選択する勇気を身につけてください。
⑧物事をプラスに見るか，マイナスに見るかで人生は大きく異なります。ネガティブな発想の人には，ネガティブな出来事が，ポジティブな発想の人には，ポジティブな出来事が，起こります。
⑨できない理由を探すのをやめ，実現する方法を議論しましょう。ほとんどのひとはできない理由を探しがちです。勇気を持って対案を用意し，できる方法を探す人こそが真の勇者です。そういう人たちに囲まれるようにしましょう。
⑩人生は「逆張り」した人に最大の価値が生まれます。みんなが「きっとそうだ」と信じていることを疑ってみてください。答はその対極にあることがあります。みんなが無

理だ，できないと思っていることに挑戦すること。そこに，本当の価値があります。（253ぺ）

＊

仮説実験授業とは別次元の本であることは言うまでもない。そもそも，土俵がまったく違う。仮説実験授業および科学教育の王道と学校とはそもそも関係がない。ただし，私の現在の立ち位置は高校教師だから，こうした本に関心を抱かざるを得ない。私の問題意識はここにある。これを越えることもなければ，これ以下になることもない。

＊

たとえば，10 年後，この本の価値はどの程度になっているかを想像してみると面白いと思った。全く変わらない，かえって増している，かなり減じている，この三つが選択肢になるだろうか。いや，「ある面では減じているが，ある面では増している」ということもあるのかも知れない。読み手の価値観によって，結果もまちまちであろう。それが読書の楽しさというものかもしれない。

著者の勇気と実行力に心からの拍手を送る。そして，この本に果たして先見性と再現性があるかどうかは，慎重に見守りたいというのが読後の私の感想である。こうして紹介したくなるということは良い本であるということだ。読みたい本がすぐに読めるという幸せを感じた。青木さん，ありがとうございます。

◎阿刀田高著『ギリシア神話を知っていますか』（新潮文庫・1998 年）

ギリシア神話についての手際のよい紹介本。さりげなく著者の見方が織り込まれている軽やかさに感心した。気になったところを抜き書き。

〇「プロ」には「前の」という意味があり，「エピ」には「後の」という意味がある。また，「メテウス」は「考える」という意味を含んでいる。

プロメテウスは「前もって考える」人であり，「エピメテウス」は「後で考える」人であった。日本語の慣用句で言えば，さしずめプロメテウスの名は「先見の明」であり，エピメテウスの名は「下衆の後知恵」であろう。（142 ぺ）

〇複雑多岐にわたっているギリシア神話ではあるが，大まかに分けてみると，次の五つの物語群にくくることができるだろう。

１　オリンポスの神々の伝説

２　アルゴー丸遠征隊の伝説

３　英雄ヘラクレスの伝説

４　テーバイの伝説

５　トロイア戦争の伝説（221 ペ）…そうか，こういう風に分類できるのか…。

〇物書きが本業になってからは一カ月に五冊から十冊の本を読む。熟読型のほうなので，たいてい丁寧に読むのだが―そして，本に書いてあることはたしかに一通り理解するのだが，昔のように胸が弾むような感銘を受けることは少ない。なにがしかの影響を受けることがあったとしても，それは「この本を読めば，こんな影響を受けるだろう」と，理性的に予測もつくし，納得のいくものばかりだ。瓢箪から駒が出るような効果はけっしてない。

脳味噌をコンピュータにたとえることが許されるならば，若い頃の読書にはコンピュータの機種決定にかかわるなにかがあるのではないか。いったん機種が決定してしまうと，そう飛躍のある演算はできない。

少年の頃にギリシア神話にめぐりあったのは私の脳味噌の機種のありかたに，たしかに微妙な変化を与えているようだ。美しいものへの関心，物語（ロマン）への傾斜，運命についての考え方，いや，そんな明確なことばかりではあるまい。ある種の文化精神が自分でも気づかない形で浸み込んでいるにちがいない。（234 ペ）

◇次回以降の予告

◎八代目桂文楽著『芸談あばからべっそん』（ちくま文庫・1992 年）（私物）

◎本多静六著『新版・本多静六自伝―体験八十五年―』（2016 年・実業之日本社）（私物）

◎森田敦史著『なにもしていないのに調子がいい』（クロスメディア・パブリッシング・2016 年）（私物）

◎板倉聖宣著『増補版・模倣と創造』（仮説社・1987 年）（私物）

◎マックス・ウェーバー著・中山元訳『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（日経 BP クラシックス・2010 年）（私物）

◎牧野雅彦著『新書で名著をモノにする「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」』（光文社新書・2011 年）（私物）

◎廣松渉・加藤尚武編訳『ヘーゲル・セレクション』（平凡社ライブラリー・2017 年）

（私物）

◎文藝別冊『KAWADE 夢ムック・立川談志』（河出書房新社・2013 年）（私物）

◎立川談志著『努力とは馬鹿に恵えた夢である』（新潮社・2014 年）（私物）

◇まとめ･つぶやきなど

○〔今月号は，9 月 20 日（木）16:30 を目処に制作することを決めた＝途中で変更してもべつに構わないので,完成したときのイメージを楽しむためにきわめて気楽に決めた〕

〔9 月 2 日（日）11:20，代役の模試監督を頼まれて化研で聴くはズスケのバッハ〕

○ある生徒 A 君がたとえば「異性体の問題がわからない」と言ってきたとき，①解き方を教える，のが普通。このとき②生徒集団の中での A 君の位置づけを想像し，生徒集団の現状全体を俯瞰すること，も可能。さらに，A 君への解法説明を一般化して，③A 君のような疑問を持つ生徒を減らす説明を組み込んだ授業を構成する，ことも可能。

　たとえば，こうした活動をいていくことが,「メタ認知」を応用することなのではないか。個別対応だけではなく，個々を越えた拡がりを持ち，最近取り上げられることも多い「ビッグデータ活用」の発想とも共通したものを感ずる。

○英単語のこと。progressive，positive と同等の P で始まる単語（類義語）があると面白い。perspective（俯瞰した・見渡した・見通した）はどうだろうか。

○**「早わかり」というのは言い換えれば「俯瞰（ふかん）」である。**その説明を読んだり聞いたりすれば，ものの見方や社会的，歴史的な位置づけがわかるのが「早わかり」の意義。「図解は最強の早わかりの一つである」「コトワザも有力な早わかりの一つである」〔以上，9 月 6 日（木）朝 3 時過ぎ，北海道で大きな地震があった日，14:25〕

○3 年生の化学実験，注意を促す板書で，いつも生徒たちに呼びかけている safety,speed,soundness の三つの他に，今朝，strategy＝戦略を付け加えてみた。「どういう順番で誰が実験するか」を班の中で決めて手分けをすることで,時間を短縮できる。高校生に「戦略的に仕事を処理する方法」を意識的かつ具体的に教えることは，とても大きな意義を持つと思う。実験レポートにどのような感想を書いてくれるかがちょっと楽しみである。

○運動しているときに思いついたことを書いたメモが財布から出てきたので転記。「対決実験」という考え方・言葉は，ひょっとすると仮説実験授業以前にはなかったのではな

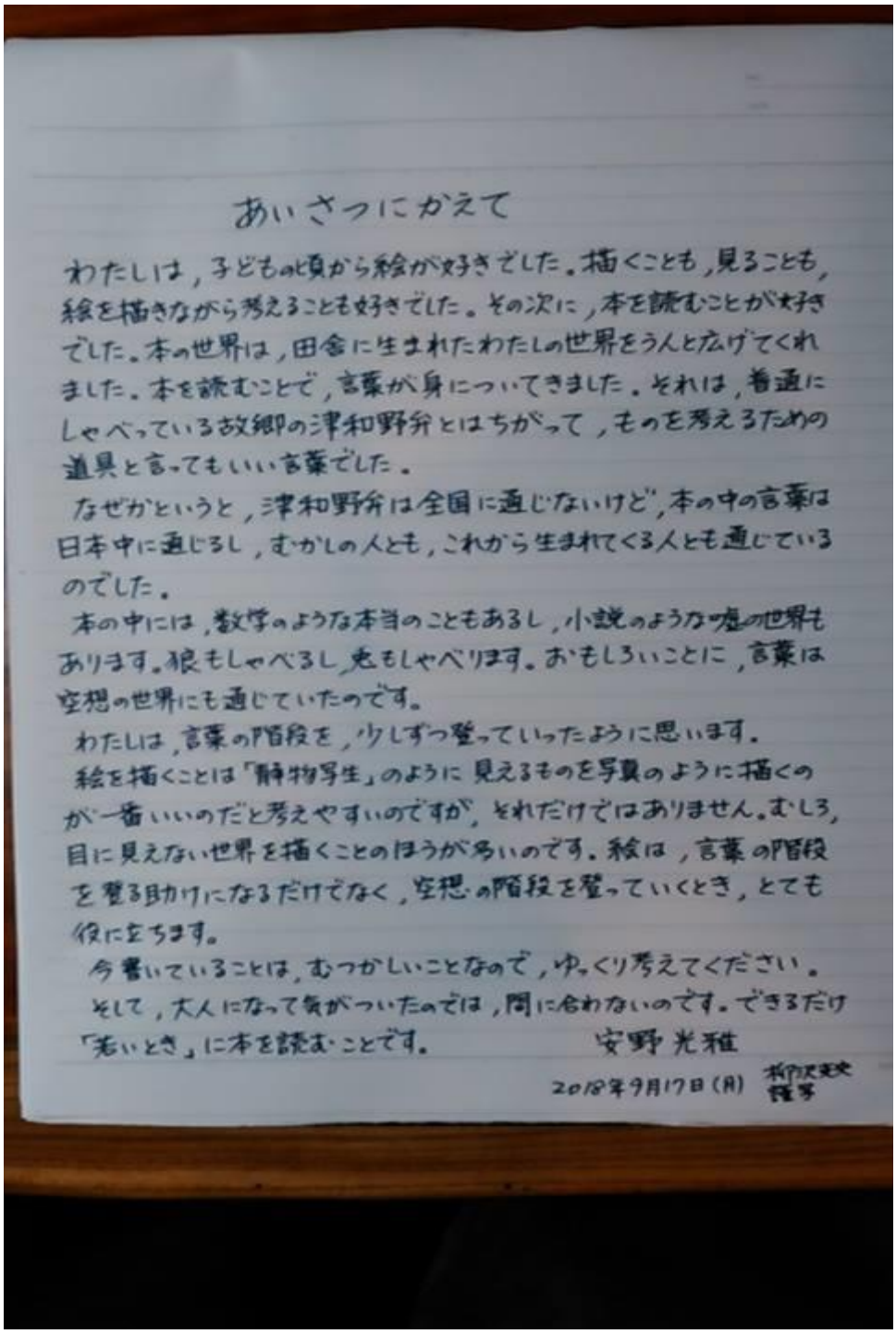
いか。矛盾を解決する手段としての実験を意識的に手法化したのは板倉さんが初めてなのではないか…という仮説。一つでも「反証」が見つかれば，この命題は成立しない。さて，どうやって調べたら良いだろうか。それ以前に，はたしてこれは，調べるに値する問題なのだろうか。

○「締め切り」を設定するというのは，誰の発明だろうか。素晴らしい発想である。締め切りを設定すると，それまでにすべき仕事と時間とが明確になる。完璧ということはあり得ないから，締め切りまでに到達度 8 割ぐらいの仕事をすれば良いと腹が決まる＝牧衷さんの説いていたところの「覚悟を決める」ことにも通じる。（そして，これも牧衷さんの説いていた）ロジスティック曲線の完成度 8 割を達成するために，課題全体を俯瞰して，自らのなすべきことについて計画を立て，戦略的に仕事をこなしていけば良い。あたかも，チョーク・アートのトレースを進めるかのごとく…。そして，あたかも，人生の歩みのごとく…。そしてさらに付け加えるならば，就寝こそは，その日の締め切りにあたる期限である。当たり前のことだが，一日一日の積み重ねが大切だ。〔以上，9 月 10 日（月）12:14〕

○授業で「テストで良い点を取るための解法」について説明しようと考えたら，やはりメタ認知のことが気になってきた。ある問題を解く方法を通して，「全体を俯瞰する」＝「テーブル（一覧）をつくる」ことの大切さを説いた後の板書の写真がこの写真。全体を俯瞰して戦略的に解くということは，人生全般に共通する有力な課題解決法であると思うのだがどうだろうか。〔9 月 13 日（木）12:30〕

○9 月 16 日（日）午前，坂城町鉄の展示館で「お守り刀展覧会」。午後，上田市サントミューゼで「ウィリアム・モリス展」。

○9 月 17 日（月・祝）長野市若里の水野美術館で「安野光雅のせかい」を見た。生命力にあふれた原画がたくさん展示されていて素晴らしかった。その後，千曲市森の長野県立歴史館で「黒曜石展」。一番興味を引かれたのは全国各地で産出される黒曜石のサンプル。同じ黒曜石でも，質感，色（特に透明感や黒色の深さ）が大きく異なる。機器分析による分類も，見かけの質感と対応して別々のグループとなることが歴然としている。目に見えるものが数値化されてグラフ上にプロットされたものを俯瞰すると，ある基準を座標軸にした範囲での黒曜石「全体像」が見えてくるような気がした。



あいさつにかえて

わたしは，子どもの頃から絵が好きでした。描くことも，見ることも，絵を描きながら考えることも好きでした。その次に，本を読むことが好きでした。本の世界は，田舎に生まれたわたしの世界をうんと広げてくれました。本を読むことで，言葉が身についてきました。それは，普通にしゃべっている故郷の津和野弁とはちがって，ものを考えるための道具と言ってもいい言葉でした。

なぜかというと，津和野弁は全国に通じないけど，本の中の言葉は日本中に通じるし，むかしの人とも，これから生まれてくる人とも通じているのでした。

本の中には，数学のような本当のこともあるし，小説のような嘘の世界もあります。狼もしゃべるし，鬼もしゃべります。おもしろいことに，言葉は空想の世界にも通じていたのです。

わたしは，言葉の階段を，少しずつ登っていったように思います。

絵を描くことは「静物写生」のように見えるものを写真のように描くのが一番いいのだと考えやすいのですが，それだけではありません。むしろ，目に見えない世界を描くことのほうが多いのです。絵は，言葉の階段を登る助けになるだけでなく，空想の階段を登っていくとき，とても役に立ちます。

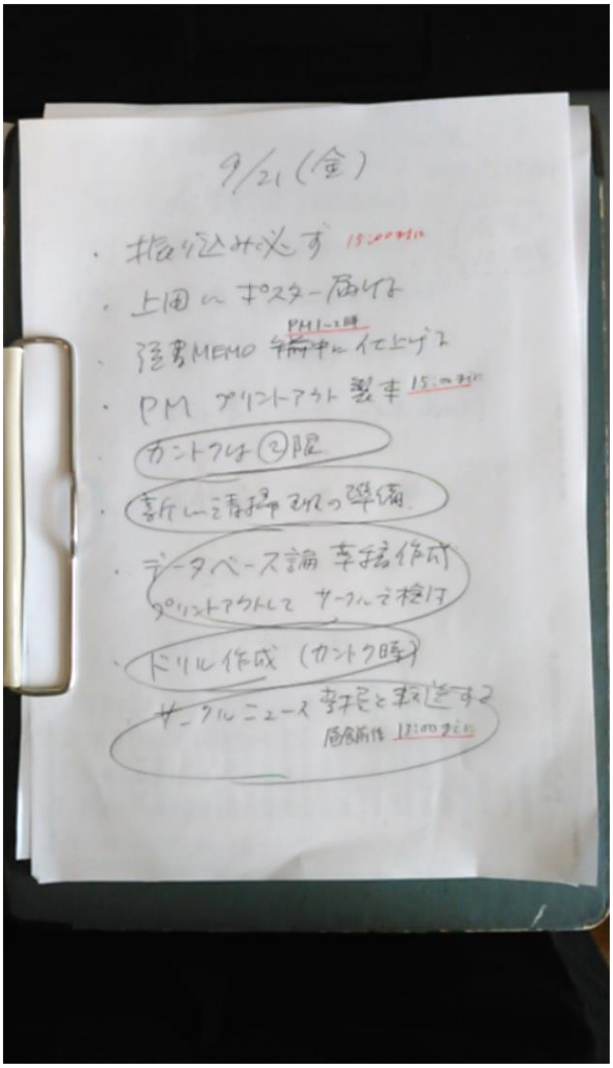
今書いていることは，むつかしいことなので，ゆっくり考えてください。

そして，大人になって気がついたのでは，間に合わないのです。できるだけ「若いとき」に本を読むことです。

安野光雅

2018年9月17日(月) 柳沢文庫 授与

tableを作り全体俯瞰する
俯瞰して戦略的に解きすすむ
strategic
9 C3H8Oのtable
この図と左の図が重なって浮び上がるようにする


9/21(金)
・指り込み必ず
・上田にポスター届ける
・注意MEMO
・PM プリントアウト製本
・カントクは②限
・新しい清掃班の準備
・データベース論 幸福作成
プリントアウトして サークルで検討
・ドリル作成 (カントク時)
・サークルニュース 幸子さと共送する